

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300600		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム ひだまり1		
所在地	熊本県下益城郡美里町二和田1235番地1		
自己評価作成日	令和6年12月1日	評価結果市町村報告日	令和 7年 2月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和6年 12月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、美里町の市街地や山脈が見渡すことができ、四季の移り変わりを感じられ、眺めの良い所にあります。特別養護老人ホームやデイサービスと併設しており、施設にいても、地域の方々との交流を続けられる環境にもあります。外の景色を眺めながら、安らぎや安心を感じ、穏やかに過ごして頂けるよう支援に取り組んでいます。また、地域やご家族との結びつきを大切に、その人らしく生活できるように一人ひとりに寄り添いながら信頼関係作りに取り組んでおります。ひだまりでの生活では、本人の出来る事を探しながら、出来る事の継続を目指し、役割作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に馴染みのある福祉施設として入居前から法人のデイサービスを利用されていた入居者も多数おられます。日々の生活は基本的に自由で、訪問時も、ホールでゆっくり過ごしたり手作業を楽しまれたりと、思い思いの時間を過ごしていらっしゃいました。職員は経験豊かでありながらも、言葉遣いや入居者への対応について課題を持ち、度々振り返りながらより良いケアを目指す姿勢を持たれています。法人・事業所内研修も、録画や動画を利用してすべての職員が同じ内容を学ぶことができるよう工夫されています。地域資源の活用にも取組まれており、町の商店や電気店の利用、家族での外食も町の飲食店を利用される姿が聞かれました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りで、理念の唱和を行っており、理念を共有し、日々のケアに努めている。	法人理念・事業所理念があり、掲示と毎日の唱和を行っている。職員入職時は理念についての研修を行い、定期的に勉強会も行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2週間に1回程、地域の店に利用者と一緒に野菜など食材を買いに行き交流を図っている。地域の清掃作業は、6月と10月に法人として参加した。	毎年地域で年2回行われる清掃作業は法人職員が参加している。コロナ禍以降、法人行事や地域行事も縮小しているが、地域に住む家族や地域の商店での買い物・外食等、入居者それぞれの関わりを支援している。事業所の取組みとして、地域資源を活かすこととしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として、地域サロンでの認知症の啓発などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ひだまりの状況を報告し、意見を求めている。ご意見を頂いた際は、スタッフに伝え、実践で生かせるように努めている。また、毎回、身体拘束に関する報告を行い、意見を求めている。	事業所の取組みや入居者の生活の様子を伝え、ヒヤリハット・事故報告、BCPについての報告等を行っている。今年度は、日中の入居者の過ごし方や家庭における災害対策への準備等、多面での意見交換が行われた。災害対策では、地域との連携取組みが必要であることも新たな課題となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を活用しながら、報告や相談を行っている。また、必要に応じて電話や役場へ出向いて相談などを行っている。	運営推進会議には役場と社会福祉協議会より参加があり、事業所の取組みを積極的に伝えている。日頃より役場には報告・相談等必要に応じ行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人での研修会や部署での勉強会を実施。又身体拘束委員会でセンサーの検討を行い、運営推進委員会でも報告を行っている。	法人・事業所で行う勉強会等で職員は学びを重ねている。法人で組織する身体拘束委員会の検討内容は運営推進会議でも報告している。センサーマット・人感センサーが必要と思われる際には家族に丁寧に説明し同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での研修会や勉強会で、虐待やストレスマネジメント、自己覚知など学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、勉強会で学ぶ機会を作っている。今年度は2月に予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際説明を行い、家族の不安等を把握する様に努めている。入居後の相談など面会時や電話で対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・ご要望は、リーダー会議の際や運営推進会議の際に報告を行っている。また、必要に応じて、運営会議での報告も行っている。	入居者の意見・要望は職員との日頃の会話や寄り添いにて把握している。事業所は家族との関わりをととても大切にしており、家族来所時には家族を交え話をする機会を作っている。運営推進会議でも意見交換の場を設けている。得た意見・要望は検討を行い、必要に応じ法人へも報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ひだまりでの現状の報告は、主に運営会議で報告を行っている。 個人面談やミーティングの他、個別での相談事などは、直接、理事長等への相談を行い、法人として対応を行って頂いている。	職員は、代表者や管理者等にいつでも意見や提案を伝えることができる。管理者等は、毎日の送りやミーティングの他、個人面談での職員の意見等は必要に応じ法人・理事長へ報告相談し対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	メモリアル休暇の取得や、短時間の有給休暇(2時間)などを取り入れ、働きやすい環境整備に努めている。また、個別研修(CM更新研修)など、業務内での受講としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひだまりでの勉強会を職員主導で行い、また、法人内部研修など業務内に参加できる環境を整え受講の機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城地区のGH連絡会に参加しているが、スタッフの同業者との交流は少ない。同法人での勉強会などへの参加で法人内での交流などは出来ている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報は、職員間で共有を行い、入居後もご利用者の声を聴きながら安心して生活ができる様ケアに取り組んでいる。要望にできる限りこたえられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や面会時などご家族の思いや不安・要望などの把握に努めている。 入居後も、関係性が築ける様、コミュニケーションを取りながら安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望・不安等を話をしていく中でくみ上げ、要望に沿えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・出来ないことを見極め、本人の負担にならないよう役割を持って頂いている。 出来ない所の支援を行い、日常生活の不安を取り除き、安心して暮らせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、外泊など家族と過ごして頂くと共に、敬老会や餅つきなど家族に参加してもらい、関係性を維持できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の店での買い物や、馴染みの理髪店を利用。又併設の施設に兄弟や、顔なじみの方に会いに行き交流できるよう支援した。	できるだけ地域資源を活かす取組みを行っており、入居者にも馴染みのある商店での買い物や利用、美容室訪問等も継続している。隣接する事業所には親戚や知人もおられ、入所後も交流が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりが持てるよう、レクや活動への声掛け、席の配慮を行った。又、合同レクを行うなど、日頃から自由に両ユニットを行き来できるよう見守りを行い対応をした。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をされた方に関しては、面会制限等がある為、会えないが、連携室などから近況を聞いたり、同法人内の施設に移られた方は、会いに行ったりと継続した関係性に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを日常の会話の中で聞き、職員で共通認識として把握していけるよう努めている。出来る限り意向に添える形を取りたいが、難しい場合は、話し合うなどの対応をしている。	入居者の思いや意向は、日頃の職員の寄り添いや会話の中で把握し、職員間で共有している。意向は家族にも報告しながら実現に向けてそれぞれに対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報から、今までの生活状況などを担当ケアマネやご家族より話を聞き入居後の生活支援等に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、全員のバイタルチェックを行い、体調の変化等の早期発見に努めている。また、変化に関して主治医等と情報の共有を図り早期対応・ケアの変更などに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化などの情報を共有し、ケアの変更など必要性があれば、現場の職員の意見を聞きご家族への相談を行いながらその人に合ったケアに変更している。	入居者それぞれの担当職員を中心に毎月評価を行う。入居者それぞれに実践シートとして記録を残し、担当職員・管理者・介護計画作成担当者、家族の意向も反映して介護計画の作成変更を行っている。。家族には随時職員より状況を報告し、意向の確認も行っている。入居者の身体状況に変化があるときは家族にも担当者会議に参加して頂いている。	普段から家族ともよく話し、入居者の状況報告もされている様子が聞かれましたが、家族アンケートに入居者の現状を「更に詳細に知りたい」と望まれている方も居られますので、事業所の今後の対応等を改めて話し、共有する場として、担当者会議開催時にご家族へ参加の呼び掛けをされてみてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にプランの必要なケア内容をチェック項目として記入し、必要項目をチェックする		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望や本人の状況に応じて他施設への変更や他科受診の付き添いを行っている。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店での買い物や、作品展見学など行った。慰問も少しずつ増えたが、今後地域での交流が増やせるようにしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が協力医であれば、月2回の訪問診療で、必要時に外来受診を行っている。協力医以外の主治医の場合は、ご家族の協力を得て受診を行ったり、情報の提供を行っている。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、殆どの入居者が協力医を主治医とし、月2回の訪問診療である。協力医以外の受診は家族による通院介助を基本としている。通院のために来所される家族には結果の他今後の支援について等、情報や意向の確認を細かに行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化などは看護師へ報告し、医療との連携をとれるようにしている。また、不在時などは、他部署の看護師の協力を得て適切な判断が出来るようにしている。(必要時は、訪問看護を利用できる)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院・ご家族と連絡を取り合い、早期の退院支援に努めている。また、入院中もご家族との連絡を取り合い、現在の状況やご家族の不安などを聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や看取りに関する話を必ず行っている。また、必要時には、ご家族の意見を聞き看取りケアの内容についても詳しく話をしている。	入居契約時に事業所の考えと対応を説明している。実際にその時期を迎える際には家族・関係機関等と話し合いを重ね、希望される場合は看取りまでの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について勉強会を開催したり、状態の悪いご利用者がいらっしゃる場合は初期対応の指示などを行い、職員が対応できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で避難訓練を行っている。またBCPIについての勉強会を開くなどして災害等への意識付けを行っている。	同じ敷地にある法人事業所と合同で避難訓練を行っている。今年度は加えてBCPIに関する勉強会を行い、炊き出しを想定して備蓄食を使つての調理も行った。BCPIについては運営推進会議でも議題とし、家族・地域との連携への取組みも今後の検討事項となった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切に言葉かけを心掛けているが、言葉使いに関しては自分達の課題にあがっており、見直しを行いながらご利用者に寄り添うケアに取り組んでいる。	言葉遣いについては日頃から課題として持ち続けており、職員の思いとしてアンケートや月目標でも「言葉遣い」に関する内容が度々挙がる。入居者との距離感や言葉の掛け方等、臨機応変なケア・対応について学びを重ねている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、本人のニーズをくみ取り、思いに寄り添うよう努めている。 また、日常の中での言葉かけで、出来るだけ、本人の意思決定が出来るような言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や食事・入浴など本人の意思を尊重し柔軟な対応を行っている。活動なども無理をせず、本人の意思に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは、選べる方は一緒に選んで準備をしている。散髪は施設に地元の理・美容師さん呼び、散髪を行っている。個々の馴染みの方がいらっしゃるため、本人の希望の理髪店の方に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の献立に基づいて食事を提供し、ご飯・汁物はGHで作っている。その他に、おやつ作りなどで出来る作業の手伝いを役割としてお願いしている。	敷地内法人事業所より昼夜の主副菜他の配食がある。事業所での調理もあり、入居者による野菜切りや食器洗いの手伝いもある。秋には焼き芋会を開催し、楽しむ姿があった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下機能に問題がある場合は管理栄養士と相談しソフト食やゼリー食を提供している。医師・管理栄養士と相談をしながら対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	4回/日口腔ケアを行い、口腔内の清潔の維持に努めている。必要に応じて、訪問歯科を利用している。義歯使用者は、夜間はあずかり、洗浄剤にて清潔の維持に努めている。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を目指している。また、運動・水分補給で排便がスムーズに出来る様努めている。	入居者それぞれの状態に合わせた支援を行っている。パット使用の際は昼夜の大きさを変えたり、大きさを変える際には負担が大きくならないよう家族と相談を重ねたりと工夫している。入居者の状態によっては時間での声掛け・誘導も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤に頼らず運動・水分補給などで便秘の予防に取り組んでいる。必要時に牛乳などで排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1回/3日入浴支援を行っている。希望されない時には時間・日にち・対応職員・場所を変更するなどの対応を行っている。体調不良の場合は、日にちを変更するなどの対応をしている。	3日に1回の入浴を基本としている。2ユニットで一般浴槽又は機械浴いずれかを利用でき、浴槽でゆったりと過ごして頂くよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動への参加を促し、夜間の安眠に繋がれるように努めている。また、日中も、昼寝や居室で自由に過ごされるよう個々の希望に添うように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は、職員が確認できるようにしてあるが、より詳細を把握する必要あり。薬はその都度お盆に確認しやすいように準備し、誤薬防止に努めている。症状の変化については記録や申し送り等で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて、調理や食器洗い、台ふき、洗濯物等の作業を行っている。又レクリエーションや体操等参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ふるさと訪問や買い物、ドライブなど出かける機会を設け、気分転換や地域を感じて頂ける様努めている。	気候が良い日や希望による敷地内の散歩、ベランダで過ごす等は日常的である。家族との外出・外食や通院、一時帰宅や宿泊等もある。今年度は、近隣観光地へのドライブや開設予定の法人施設への見学ドライブ等、計画による外出も行った。	

グループホーム ひだまり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理されている方はいらっしゃらないが、必要な場合は、預かり金の中から一緒に支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と一緒に電話をしたり、家族からの電話を本人につないだりしている。又携帯を使用されている方もいる。 手紙は、毎年年賀状に、ご本人が可能な場合は名前などを書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに2か所のトイレがありスプレーなどを使い、匂いには配慮を行っている。室内のレイアウトは季節が感じられるものになっている。	入居者に馴染みのある景色を眺めることができるホールは広々としており、入居者それぞれのペースでのんびり過ごしたり手作業を楽しんだりと思いの時間を過ごすことができる。室温・匂い等にも配慮し、落ち着いて心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所が出来るようにソファや椅子を配置し、自分の過ごしやすい場所ですごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ペット以外の物は、入居時に出来るだけ自宅で使い慣れたもの、馴染みのあるものを持参して頂いている。又家族の写真を飾るなど馴染みの物がある空間にしている。	入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼している。写真等家族を感じることができる居室や、植木鉢で花を育てる方がおられる等、それぞれの生活の様子がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やお風呂、トイレなど目印をつけ、わかりやすいように工夫をしている。また、廊下には手すりがあり安全に移動が出来るようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300600		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム ひだまり 2		
所在地	熊本県下益城郡美里町二和田1235番地1		
自己評価作成日	令和6年 12月 1日	評価結果市町村報告日	令和6年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和6年 12月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、美里町の市街地や山脈が見渡すことができ、四季の移り変わりを感じられ、眺めの良い所にあります。特別養護老人ホームやデイサービスと併設しており、施設にいても、地域の方々との交流が続けられる環境にもあります。外の景色を眺めながら、安らぎや安心を感じ、穏やかに過ごして頂けるよう支援に取り組んでいます。また、地域やご家族との結びつきを大切にし、その人らしく生活できるように一人ひとりに寄り添いながら信頼関係作りに取り組んでいます。

ひだまりでの生活では、本人の出来る事を探しながら、出来る事の継続を目指し、役割作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りで、理念の唱和を行っており、理念を共有し、日々のケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2週間に1回程、地域の店に利用者と一緒に野菜など食材を買いに行き交流を図っている。地域の清掃作業は、6月と10月に法人として参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として、地域サロンでの認知症の啓発などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ひだまりの状況を報告し、意見を求めている。ご意見を頂いた際は、スタッフに伝え、実践で生かせるように努めている。また、毎回、身体拘束に関する報告を行い、意見を求めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を活用しながら、報告や相談を行っている。また、必要に応じて電話や役場へ出向いて相談などを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人での研修会や部署での勉強会を実施。又身体拘束委員会でセンサーの検討を行い、運営推進委員会でも報告を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での研修会や勉強会で、虐待やストレスマネジメント、自己覚知など学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、勉強会で学ぶ機会を作っている。今年度は2月に予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際説明を行い、家族の不安等を把握する様に努めている。入居後の相談など面会時や電話で対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・ご要望は、リーダー会議の際や運営推進会議の際に報告を行っている。また、必要に応じて、運営会議での報告も行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ひだまりでの現状の報告は、主に運営会議で報告を行っている。 個人面談やミーティングの他、個別での相談事などは、直接、理事長等への相談を行い、法人として対応を行って頂いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	メモリアル休暇の取得や、短時間の有給休暇(2時間)などを取り入れ、働きやすい環境整備に努めている。また、個別研修(CM更新研修)など、業務内での受講としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひだまりでの勉強会を職員主導で行い、また、法人内部研修など業務内に参加できる環境を整え受講の機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城地区のGH連絡会に参加しているが、スタッフの同業者との交流は少ない。同法人での勉強会などへの参加で法人内での交流などは出来ている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報は、職員間で共有を行い、入居後もご利用者の声を聴きながら安心して生活ができる様ケアに取り組んでいる。要望にできる限りこたえられるように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や面会時などご家族の思いや不安・要望などの把握に努めている。 入居後も、関係性が築ける様、コミュニケーションを取りながら安心して頂ける様に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望・不安等を話をしていく中でくみ上げ、要望に沿えるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・出来ないことを見極め、本人の負担にならないよう役割を持って頂いている。 出来ない所の支援を行い、日常生活の不安を取り除き、安心して暮らせるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、外泊など家族と過ごして頂くと共に、敬老会や餅つきなど家族に参加してもらい、関係性を維持できるように努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の店での買い物や、馴染みの理髪店を利用。又併設の施設にご主人や、顔なじみの方に会いに行き交流できるよう支援した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりが持てるよう、レクや活動への声掛け、席の配慮を行った。又、合同レクを行うなど、日頃から自由に両ユニットを行き来できるよう見守りを行い対応をした。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をされた方に関しては、面会制限等がある為、会えないが、連携室などから近況を聞いたり、同法人内の施設に移られた方は、会いに行ったりと継続した関係性に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを日常の会話の中で聞き、職員で共通認識として把握していけるよう努めている。出来る限り意向に添える形を取りたいが、難しい場合は、話し合うなどの対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報から、今までの生活状況などを担当ケアマネやご家族より話を聞き入居後の生活支援等に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、全員のバイタルチェックを行い、体調の変化等の早期発見に努めている。また、変化に関して主治医等と情報の共有を図り早期対応・ケアの変更などに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化などの情報を共有し、ケアの変更など必要性があれば、現場の職員の意見を聞きご家族への相談を行いながらその人に合ったケアに変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にプランの必要なケア内容をチェック項目として記入し、必要項目をチェックする		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望や本人の状況に応じて他施設への変更や他科受診の付き添いを行っている。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店での買い物や、作品展見学に行った。慰問も少しずつ増えたが、今後地域での交流が増やせるようにしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が協力医であれば、月2回の訪問診療で、必要時に外来受診を行っている。協力医以外の主治医の場合は、ご家族の協力を得て受診を行ったり、情報の提供を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化などは看護師へ報告し、医療との連携をとれるようにしている。また、不在時などは、他部署の看護師の協力を得て適切な判断が出来るようにしている。(必要時は、訪問看護を利用できる)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院・ご家族と連絡を取り合い、早期の退院支援に努めている。また、入院中もご家族との連絡を取り合い、現在の状況やご家族の不安などを聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や看取りに関する話を必ず行っている。また、必要時には、ご家族の意見を聞き看取りケアの内容についても詳しく話をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について勉強会を開催したり、状態の悪いご利用者がいらっしゃる場合は初期対応の指示などを行い、職員が対応できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で避難訓練を行っている。またBCPIについての勉強会を開くなどして災害等への意識付けを行っている。地域との協力体制は		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切に言葉かけを心掛けているが、言葉使いに関しては自分達の課題にあがっており、見直しを行いながらご利用者に寄り添うケアに取り組んでいる。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、本人のニーズをくみ取り、思いに寄り添うよう努めている。 また、日常の中での言葉かけで、出来るだけ、本人の意思決定が出来るような言葉かけを行っている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や食事・入浴など本人の意思を尊重し柔軟な対応を行っている。活動なども無理をせず、本人の意思に任せている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは、選べる方は一緒に選んで準備をしている。散髪は施設に地元の理・美容師さんを呼び、散髪を行っている。個々の馴染みの方がいらっしゃるため、本人の希望の理髪店の方に来ていただいている。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の献立に基づいて食事を提供し、ご飯・汁物はGHで作っている。その他に、おやつ作りなどで出来る作業の手伝いを役割としてお願いしている。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下機能に問題がある場合は管理栄養士と相談しソフト食やゼリー食を提供している。医師・管理栄養士と相談をしながら対応を行っている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	4回/日口腔ケアを行い、口腔内の清潔の維持に努めている。必要に応じて、訪問歯科を利用している。義歯使用者は、夜間はあずかり、洗浄剤にて清潔の維持に努めている。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を目指している。また、運動・水分補給で排便がスムーズに出来る様努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤に頼らず運動・水分補給などで便秘の予防に取り組んでいる。必要時に牛乳などで排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1回/3日入浴支援を行っている。希望されない時には時間・日にち・対応職員・場所を変更するなどの対応を行っている。体調不良の場合は、日にちを変更するなどの対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動への参加を促し、夜間の安眠に繋がれるように努めている。また、日中も、昼寝や居室で自由に過ごされるよう個々の希望に添うように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は、職員が確認できるようにしてあるが、より詳細を把握する必要あり。薬はその都度お盆に確認しやすいように準備し、誤薬防止に努めている。症状の変化については記録や申し送り等で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて、調理や食器洗い、台ふき、洗濯物等の作業を行っている。又レクリエーションや体操等参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ふるさと訪問や買い物、ドライブなど出かける機会を設け、気分転換や地域を感じて頂ける様努めている。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心の為少額金銭を持たれている方は2名おられるが、ほとんどの方は自己管理されていない。必要な場合は、預かり金の中から一緒に支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と一緒に電話をしたり、家族からの電話を本人につないだりしている。又携帯を使用されている方もいる。 手紙は、毎年年賀状に、ご本人が可能な場合は名前などを書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに2か所のトイレがありスプレーなどを使い、匂いには配慮を行っている。室内のレイアウトは季節が感じられるものになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所が出来るようにソファや椅子を配置し、自分の過ごしやすい場所ですごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ペット以外の物は、入居時に出来るだけ自宅で使い慣れたもの、馴染みのあるものを持参して頂いている。又家族の写真を飾るなど馴染みの物がある空間にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やお風呂、トイレなど目印をつけ、わかりやすいように工夫をしている。また、廊下には手すりがあり安全に移動が出来るようになっている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームひだまり

作成日 令和 7 年 2 月 10 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	状態の変化など情報を共有し、スタッフで話し合い家族に相談しているが、生活の支援、取り組み等伝えきれていない。	家族との信頼関係を大切にし、面会時や電話だけでなく施設の様子を伝えられるよう工夫する。	定期的に近況報告を送付する。その他に家族との関わりを増やす方法としてイベントや行事後に情報交換会を行なう。	12か月
2	35	法人で避難訓練やBCPについての勉強会を行っているが、地域との協力体制が築けていない。	災害時、地域との協力体制がとれる。	訓練の際に地域の方にも参加を促す、また、地域の訓練や取り組みに参加する。	12か月
3	29	馴染みの店での買い物等行っているが、その他の地域資源の活用ができていない。	地域との関わりを大切にしながら、豊かな暮らしを楽しむ事ができるよう支援する。	地域での催し事に参加するなど、地域との交流が増やせるよう計画する。	12か月
4	36	尊厳を大切にした言葉かけを心掛けているが、言葉使用に関して自分達の課題にあがっており、見直しを行いながらケアに取り組んでいる。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行い、ご利用者に寄り添うケアに努める。	定期的に話し合いの場を設け、自分達のケアについて振り返りを行う。	12か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。